

高齢者のソーシャルサポートの構造

○森下房枝（信州大・院）、松岡英子（信州大）

【目的】本研究は、高齢者のソーシャルサポート関係について受領と提供の2側面より捉え、それぞれのサポート構造について階層的補完モデルおよび課題特定モデルの、二つの構成モデルから明らかにすることを目的とする。

【方法】調査データは2000年7～9月にかけて実施した「高齢者の生活に関する調査」データを用いた。調査対象者は、1999年度に市町村社会福祉協議会のサービスを利用した長野県内に居住する高齢者より1450人を系統抽出した。回収数1272（87.7%）、有効数1173（80.9%）。ソーシャルサポートの受領および提供は、「相談」「理解」「助言」「サービス」「物質」の5つのサポートタイプについて、各サポート主体ごとにサポート関係の有無について尋ねた。なおサポート主体は「配偶者」「子ども家族」「親戚」「友人」「福祉専門職員」の5つである。

【結果】ソーシャルサポートの構造は、「配偶者」や「子ども家族」とサポート関係がない時の代替者について分析することで検討した。このとき基本属性やネットワーク規模、友人ネットワーク関係性などによる影響についても考慮した。受領・提供ともに情緒的なサポート項目では友人が、手段的なサポート項目では親族が、代替者になる傾向がみられた。社会的階層に沿った代替者選択の傾向は、受領サポートでは「相談」「サービス」に、提供サポートでは「物質」にみられ、階層的補完モデルは手段的なサポート項目において適用されることが示唆された。さらに受領サポートの構造と提供サポートの構造を比較したところ、受領サポートではほとんどのサポートタイプにおいて代替性がみられたが、提供サポートでは情緒的なサポートタイプを中心にその傾向がみられた。従来からの研究では受領サポートの構造について検討が重ねられてきたが、本研究では提供サポートに関してもなんらかの選択機序があることが示唆され、提供サポートの構造についてもさらなる実証研究を重ねていく必要があるものと考えられる。